



御挨拶

中国・四国地区研究大会（愛媛大会）
大会長 渡邊 恵理

令和3年8月5日（木）・6日（金）に第26回全日本特別支援教育研究連盟中国・四国地区研究大会（愛媛大会）を、松山市で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続き、参集しての開催が叶いませんでした。そこで今年は、分科会報告等を誌上で、講演をWebで開催することといたしました。関係者の皆様には、開催方法に関して御理解・御協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

これからの時代は、多様性を尊重する共生社会、障がいのある人が今以上に活躍する社会が実現されていくことと思います。今夏、世界中が注目した東京オリンピック・パラリンピックの大会コンセプトの一つも「多様性と調和」です。人種や性的指向、宗教、障がいの有無など、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩するということです。

特別支援教育では、2012年に「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」が示されました。そこから約10年、学校では、一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させ自立や社会参加に必要な力を培う学びを展開するとともに、共に学び合う場を充実させることで、障がいへの理解の促進と多様性を認め合う風土の形成、個々の障がいに応じた生き方ができる社会形成の担い手の育成を目指してきました。そして今、GIGAスクール構想により一人一台端末の環境が整い、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びの実現」に向けて、工夫した授業展開に取り組んでいます。今後は、「令和の日本型学校教育」の中にある「新時代の特別支援教育の在り方」にも示されているように、連続性のある多様な学びの場の一層の充実、教師の専門性の向上、関係機関の連携強化による切れ目ない支援の充実が求められます。

本大会は「子どもの今と将来をつなぎ、豊かな生活を実現する特別支援教育の充実～共に学び、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて～」を主題に様々な実践を重ねてきました。10の分科会で報告する教育実践は、変化する社会に適應しながら、子どもたちが自分らしく生きるためにどのような力を身に付けさせるかを第一に考え、精力を注いだ取組です。先生方の授業改善への熱意、きめ細やかな支援から、子どもたちへの深い愛情が伝わってきます。この取組報告が、中国・四国地区の特別支援教育に関わる全ての方の実践に生かしていただけるものと期待しております。

終わりに、本大会及び大会誌編纂に向けて、多大なる御支援、御協力を賜りました愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、その他関係機関・団体の皆様方をはじめ、基調報告をいただきました全日本特別支援教育研究連盟 理事長 明官茂様、講演講師を務めてくださいました桃山学院教育大学 教授 松久眞実様、研究発表・助言などで研究に携わっていただいた諸先生方、また大会準備等にご尽力いただいた全ての皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様の御健勝と御活躍、また、全日本特別支援教育研究連盟中国・四国地区特別支援教育連盟のますますの充実・発展を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。